

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-08-25

城戸朋子・吉田傑俊教授の略歴と主な業績

(出版者 / Publisher)

法政大学社会学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

社会志林 / Hosei journal of sociology and social sciences

(巻 / Volume)

52

(号 / Number)

4

(発行年 / Year)

2006-03

■ 城戸朋子・吉田傑俊 教授の略歴と主な業績

城戸朋子教授

<略歴>

- 1959年3月 法政大学文学部哲学科卒業
- 1961年3月 法政大学大学院人文科学研究科哲学専攻 修士課程修了（哲学修士）
- 1965年3月 同 博士課程単位取得満期退学
- 1966年9月 アメリカ合衆国シカゴ大学大学院文化史研究科入学
- 1968年6月 同 退学
- 1962年～64年4月 東京藝術大学美術学部心理学研究室副手
- 1969年～70年3月 TBSブリタニカ社出版局編集部勤務
- 1969年4月 法政大学第二教養部非常勤講師
- 1970年4月 同 専任講師（「社会学」, 「芸術」, 「英語」担当）
- 1972年4月 同 助教授
- 1978年4月 法政大学第二教養部教授
- 1981年4月 オーストリア共和国ウィーン市 MEDIACULT にて音楽社会学研修（1982年2月まで）
- 1984年4月 法政大学社会学部教授（「芸術と社会」「英語」担当現在に至る）
- 1990年4月 法政大学大学院社会科学研究所社会学専攻（「音楽社会学」「カルチュラルスタディーズ」担当現在に至る）
- 1997年4月～99年3月 法政大学大学院社会科学研究所社会学専攻主任
- 1998年4月～99年3月 同 社会科学研究所主任

<所属学会>

音楽学会, 社会心理学会, 美学会, 文化経済学会

<主な業績>

I 論 文

- 「音楽の文化・社会心理学的アプローチ」『音楽学』Vol.8. 日本音楽学会 1962
- 「マス・コミュニケーション時代の音楽と接触」『朝日ABC』10月号 朝日放送 1963

- 「アルフォンス・シルバーマンの音楽社会学」『音楽芸術』4月号 音楽之友社 1966
- 「芸術と科学技術——音楽を中心にして——」『ユニヴェルシタス』法政大学出版局 1974
- 「何のための音楽教育——世界の中の日本の認識——」『日本の学力』第9巻 編・著 日本標準社 1979
- 「音楽社会学への私的試論」法政大学教養部『紀要』vol.34. 1980
- 「若者の音楽行動に関する考察」法政大学教養部『紀要』vol.38. 1981
- 「New Patterns of Music Behavior in Japan」『ISME Year Book.』Vol. X
- 「音楽と政治——19世紀ヴェーバーの音楽生活」『社会と社会学』2. 新評論社 1984
- 「Roles of Mass Media and Music Education played on the Musical Tastes of Students Research on the Trend of Public Tastes」『社会労働研究』vol.34. 1号 1987
- 「ブルジョワ階級の音楽生活と流行」『季刊コンサート』草楽社 1988
- 「The Recent Development of Music, Events and Patron —— Business & Advertisement in Japan since 1985」『ISME Year Book』Vol. XI 1993
- 「19世紀ジェニー・リンドというスーパースターがいた」研究ノート『社会志林』第47巻 第2号 2000
- 「イギリスの新聞はどのように Jenny Lind (ジェニー・リンド) を報じたか—— [The Times], [The Illustrated London News], [Punch, or the London Charivari] に見る報道—— (I)」『社会志林』第51巻 第1号 (II) 第2号 2004
- 「イギリスにおけるジェニー・リンドに対する文化人の反応——音楽評論家ヘンリー・チャーリーの論評——」研究ノート『社会志林』第51巻 第4号

II 翻 訳

- 『音楽はいずこへ——音楽の社会学——』Wovon lebt die Music (The Sociology of Music) by Alphons Silbermann ——紀伊国屋書店 1966
- 『音楽の歴史』An Illustrated History of Music by Marc Pincherle. PARCO 出版局 1975
- 『音楽と中産階級——演奏会の社会史——』Music and the Middle Class by William Weber 法政大学出版局 1983
- 『音楽と社会——1815年から現代までの音楽の社会史——』Music and Society since 1815. by Henry Raynor 音楽之友社 1990

III 共 訳 書

『音楽祭の社会史——ザルツブルク・フェスティヴァルの歴史——』 A History of the Salzburg Festival by Stephan Gallup 法政大学出版局 1993

『政治的検閲——19世紀ヨーロッパにおける——』 Political Censorship of the Arts and the Press in Nineteenth-Century Europe by Robert Justin Goldstein 法政大学出版局 2003

IV 辞典項目および記事

「音楽社会学」『社会学辞典』弘文堂 1988

「異才のスーパースター 音楽家リスト」『朝日百科』世界の歴史108——19世紀の世界2——（人物）p.681. 朝日新聞社 1990

「ワルキューレ」ワーグナー「オペラ鑑賞委員会」第6回「The Mostly Classic」Vol. 59. 3月 2002. p.88-91 扶桑社

V 学会口頭発表

音楽の文化・社会心理学的アプローチ。音楽学会全国大会 1961年

New Patterns of Music Behavior in Japan. ISME Symposium in Trent, Italy 1982

The Recent Development of Music, Events and Patron —— Business & Advertisement in Japan since 1985. ISME Symposium in Makuhari, Japan and World Conference in Seoul, Korea. 1992

吉田 傑 俊 教授

<略歴>

- 1940年7月27日 大阪市に生れる
- 1965年4月 京都大学文学部哲学科（哲学専攻）卒業
- 1967年3月 同文学研究科修士課程（哲学専攻）修了
- 1968年5月 神戸大学文学部哲学科助手
- 1969年11月 鹿児島大学教育学部講師（「哲学」担当）、助教授・教授を経る
- 1994年4月—95年3月 ハイデルベルク大学哲学部客員研究員
- 1986年4月 法政大学社会学部教授 現在に至る
- この間、「哲学」「社会思想史」「公共性とコミュニケーション」等を担当
- 1988年4月—89年3月 社会学部副主任
- 1991年4月—93年3月 同主任
- 1993年9月—95年3月 ケント大学社会科学部客員研究員
- 1997年4月—99年3月 法政大学多摩学生部長
- 2001年4月—03年3月 法政大学大学院委員会議長

<所属学会>

日本哲学会，社会思想史学会，唯物論研究協会

<主な業績>

I 単 著

- 1 『唯物論と日本イデオロギー』 汐文社，1980
- 2 『戦後思想論』 青木書店，1984
- 3 『現代思想論』 白石書店，1989
- 4 『現代民主主義の思想』 青木書店，1990
- 5 『知識人の近代日本』 大月書店，1993
- 6 『マルクス思想の現代的可能性—民主主義・市民社会・社会主義』 大月書店，1997
- 7 『国家と市民社会の哲学』 青木書店，2000
- 8 『市民社会論—その理論と歴史』 大月書店，2005

II 共 著

- 1 『現代の哲学』 青木書店, 1979
- 2 『現代のための哲学』 3, 青木書店, 1983
- 3 『ラディカルに哲学する』 3, 大月書店, 1994

III 編 著

- 1 『現代日本の思想—伝統と転回』 梓出版社, 1988
- 2 『転換期の思想—古在由重記念論文集』 (共編) 梓出版社, 1991
- 3 『ハーバマスを読む』 (共編) 大月書店, 1995
- 4 『戸坂潤の哲学』 (編・解説) こぶし書房, 2001
- 5 『務台理作著作集』 第6巻 (解説) こぶし書房, 2002
- 6 『『共生』 思想の探求』 (共編) 青木書店, 2002
- 7 『アーレントとマルクス』 (共編) 大月書店, 2003

IV 翻 訳

- 1 K・グロイ「フィヒテとヘーゲル」 鹿児島大学教育学部『研究紀要』 Vol. 35, 1984
- 2 D・マクレラン, S・セイヤーズ『社会主義と民主主義』 文理閣, 1996
- 3 D・マクレラン「民主主義—過去・現在・将来」 法政大学社会学部『社会労働研究』 第43巻第1・2号, 1996
- 4 J・エーレンベルク『市民社会論—歴史的・批判的考察』 (監訳) 青木書店, 2001

V 論 文 (単著 1, 3, 6 に収録したものは除く)

- 1 「労働と疎外—そのヘーゲルとマルクスにおける形態」 神戸大学文学部『研究』 Vol. 43, 1969
- 2 「歴史的なものと論理的なもの—ヘーゲル論理学「本質論」の一考察」 鹿児島大学教育学部『研究紀要』 Vol. 28, 1977
- 3 「市民社会と私的所有の問題—ヘーゲル『法の哲学』の一考察」 『唯物論』 Vol. 14, 汐文社, 1975.
- 4 「若きヘーゲルにおける理念と現実—啓蒙主義とロマン主義の克服」 鹿児島大学教育学部『研究紀要』 Vol. 28, 1977
- 5 「戦後と文学の問題—江藤・本多論争によせて」 日本文学研究資料叢書『吉本隆明・江藤淳』 有精堂, 1980

- 6 「小林秀雄氏における日本の自然主義の問題—『本居宣長』を中心として」『科学と思想』第38号，新日本出版社，1980
- 7 「現代文化としての戦後思想の問題」『唯物論研究』第6号，白石書店，1982
- 8 「日本の啓蒙思想—西周，加藤弘之を中心として」古田光・鈴木正編『近代日本の哲学』北樹出版，1983
- 9 「戦後否定論の『論理』と心理—江藤淳氏における新『近代の超克』論批判」『文化評論』No. 267，新日本出版社，1983
- 10 「戦後啓蒙主義の危機と再生の問題」『思想と現代』第2号，白石書店，1985
- 11 「戦後思想の原理はなにか」『文化評論』No. 299，新日本出版社，1986
- 12 「転換期の哲学とは？」（佐藤和夫と共著）『現代社会とマルクス主義の自己診断』梓出版社，1987
- 13 「グラムシの市民社会論（1）」法政大学社会学部『社会労働研究』第36巻第1号，1989
- 14 「グラムシの市民社会論（2）」法政大学社会学部『社会労働研究』第36巻第2号，1989
- 15 「マルクスの市民社会論—その思想史的位置と理論構造」法政大学社会学部『社会労働研究』第45巻第2号，1998
- 16 「戸坂潤の実践的唯物論の意義」『唯物論研究年報』第5号，青木書店，2000
- 17 「『グローバル』時代の国家ナショナリズムと戦後民主主義」浜林正夫・山科三郎編『徹底批判・『国民の道徳』』大月書店，2001
- 18 「近代国民国家と『ナショナリズムと戦争』」日本哲学会『哲学』54号，法政大学出版局，2003
- 19 「アダム・スミスの市民社会論」法政大学社会学部『社会志林』第50巻第3号，2004
- 20 「コミュニケーション的行為論と民主主義」石坂悦男・田中優子編『メディア・コミュニケーション』法政大学出版局，2005